

2023年度保育園の自己評価

オレンジ第2保育園

1、保育理念・保育観		評価	評価の根拠・改善方法
1	保育士一人一人が、オレンジ第2保育園の保育理念・保育方針を理解している。	A	理念・目標方針を常に確認
2	オレンジ第2保育園の保育方針を理解して保育計画が立てられている。	A	保育の計画が月案と週案につながる
3	常に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている。	A	毎月の振り返りドキュメンテーションを参照
4	一人一人の主体性を大切に保育をしている。	A	子どもの興味、関心やる気を引き出す
5	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共感している。	A	活動の配信・連絡帳・口頭で伝えあう
2、保育計画・指導計画			
1	保育方針の、ねらい及び内容が達成できるような全体的な計画や保育計画を立てている	A	年間・期・月・週・日とつなげる
2	保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して年間計画、月案、週案を立てている	A	個別計画の立案、記録をする
3	3歳未満児は、現在の姿を理解し、見通しをもって一人一人に応じた保育計画を立てている。	A	個別計画の立案、記録をする
4	配慮の必要な子には、その子に応じた保育計画を立てている。	A	個別計画の立案、記録をする
1	食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	A	年間の計画に添っている
2	調理士、保育士等が連携し、会議等で意見を交わし合いながらより良い給食になるよう努めている。	A	クラス代表、調理、栄養士の意見交換会
3	出来るだけ地元の食材や旬の食材を取り入れ、様々な食材を味わえるようにしている。	A	栄養の配慮とリクエストメニュー
4	給食やおやつは手作りをしている。	A	毎日手作り
4、職員構成・役割分担・研修			
1	職員の仕事や役割が明確であり、連携を取って円滑な園経営が出来ている。	A	ステップの評価、努力目標がある
2	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が出来ている。	A	マニュアルの確認を常に行う
3	職員が割り当てられた業務負担を把握し、園の保育や内容を深めるために、それぞれが活発に活動している。	A	それぞれの活動、担当の報告
4	園内研修と園外研修の計画を立てて実行している。	A	毎月第三土曜日、テーマを決めて実践
5	施設整備や遊具等の安全点検を行っている。	A	チェックリストに点検記入
5、保護者支援			
1	保護者と良好な関係をつくろうとしている。	A	笑顔で敬意をもって対応
2	園の保育内容や子どもの姿が分かるような発信をしている。	A	園日よりクラス便りで配信
3	保護者の状況を理解し、個人情報への漏洩に気をつけている。	A	個人情報について徹底している
4	子育てのパートナーとして、保護者の子育ての大変さや悩みを理解している。	B	できるだけ聞く態度を示す

6、子育て支援			
1	地域に開かれた、日々子育てをしている親子を受け入れている。	C	コロナ禍で実践できない
2	地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている。	C	コロナ禍で実践できず
3	子どもの心身の発達や育児不安について、気軽に相談できるようにしている。	C	コロナ禍で実践できず
4	園生活の子どもの様子を地域にも発信している。	B	コロナ禍で実践できず
1	定期的に小学校と交流を行っている。		満3歳未満時児の保育の受け入れ
2	定期的に小学校やこども園との会議や職員交流を行っている。		満3歳未満時児の保育の受け入れ
3	高齢者施設との交流を深め、高齢者の方を敬う気持ちを育てている。	B	隣にあるディサービスとの交流は時々

A:よくできた B:できた C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

園全体の評価

コロナ感染症対策が落ち着き、第5類として分類され、保育の活動や保護者との関わりが徐々に活発となった。

その中で、子どもたちの主体的保育の実践として、保育の流れを見直し、環境構成の見直しや育ってほしい保育の目標を明確にしながら、子どもにとって何が必要か？子どもが自ら選んで遊んでいるか？を確認し、子どもの現状にあった保育計画の立て方や行事のあり方、子どもへの関わりについて、話し合う機会を十分に設けて、計画を立て、実践し、振り返り、改善しながらと討議を重ね園内研修でPDCAサイクルを活用した、意義深い研修内容を実践した。

そのためには、職員が園の保育理念・目標方針をしっかりと理解し、計画を立て子どもの姿をドキュメンテーションで捉えながら、遊びの展開を考え工夫しなければならない職員の質の向上につながり、職員構成においてもリーダー・サブリーダーと共通理解と担当配置の連携が、上手く回りお互いが、チームワークの取れた雰囲気意見で意見を交わし合えた。

園の保護者参加型の運動会や発表会は、子どもの負担にならないように親子で楽しめるようにし、クラス別の時間配分を行い我が子の成長を共に楽しめた。

食育活動に於いても、年間計画がしっかりと実践され、子どもたちが食に対し興味が増し、同時に職員も試行錯誤しながら学び、体験が豊富になった。

保護者支援に於いては、個別面談や、子どもの「今 育とうとしている姿」を伝えたり、園での様子を活動を配信した。困った感のある保護者は直接声をかけ寄り添えるようにした。

地域との連携は、近隣にあるディサービスのお年寄りと交流したり、散歩の時、近隣の方々に挨拶を交わし保育園の存在を認識してもらった。